〔東京桑野会〕
古川清先輩を悼む

東京桑野会副会長
櫻井　淳
（七十八期）

令和3年（2021）の4月16日に、東京桑野会の上石幹事長から突然の訃報メールが舞い込んだ。「古川会長が亡くなった。」との上石さんのメールには「巨星墜つ」とありました。考えてみれば、東京桑野会澤田前会長から会長を引き継いでいただいたのが22年前の平成12年（2000年）、本当に長く21年間も東京桑野会の会長として東京桑野会を支えて頂きました。本当に東京桑野会を愛してやまない大先輩でした。感謝に堪えません。この時まさに、コロナ渦で東京桑野会の開催をどうするかを議論している状況でした。当時の上石幹事長の心境は本当に大変だったと思います。

親しみを込めて、古川先輩を「古川さん」と呼ばしていただきます。古川さんの同期、63期の皆さんは大変仲が良く、大津さんが命の恩人として東京桑野会の会報にも投稿されていました。外務省で大使を努めている時も、親しく安積の同期と交流していた様子は、羨ましく感じられました。それは私たちの安積高校卒業と旧制中学卒業との大きな違いであることは、先輩たちを見ているとよくわかります。多感な時期の5年間は幾つになっても仲間意識はそのままのようでした。

古川さんはエリートに相応しいコースを歩まれました。金透小、安積中、二高、東大、アメリカ留学の後外務省そして外務省の大使を歴任しアイルランド大使の後、宮内庁に移られ、東宮の大夫の大役を務められました。同期の椎野君（78期）が赤坂消防所長の時に、東宮を訪問し、中々体験できないことを経験できたよ、古川先輩には親しく歓迎してもらって、安積を誇りに思ったと言っていた。

澤田前会長のあと東京桑野会会長を引き受けられる時、まだ若かった自分たちを集め、これからの東京桑野会の発展を願い、各期幹事の複数制や専門職コミュニティ的なクラブづくりを展望されました。ゴルフ好きは澤田さんから継続されており、大内（71期）さん、現在和田（77期）さんが幹事役でかなり密度の濃い仲間づくりが行われました。毎年の東京桑野会の役員会でも無類の日本酒好きで、「いいんでないかい」と言いながら、今日は二本松の大七のきもとが手に入ったからと、若い幹事さん達との交流を楽しんでいました。同期の上野君（78期）の大手町鞍手茶屋がその会場になりました。

古川さんの東京桑野会への功績は素晴らしく、特に2007年にイエール大学に朝河記念公園の造営時に困難時に、古川さんが支援の功績が大きかったことが特記されます。このことは桑野会会長の我孫子さんの東京桑野会会報で知りました。そして、2004年に設立された朝河貫一博士顕彰協会を会長として会をけん引されました。また桑野会おける東京桑野会の名称を「桑野会東京支部」から「東京桑野会」に変えたのも古川さんでした。母校を訪れた時後輩の生徒たちに、東京に来たら必ず東京桑野会に顔を出しなさいと講演会の度に言ったよ、と教えてくれました。私は2019年の東京桑野会の会報41号に古川さんの巻頭言を読んだ時に、古川さんが朝河顕彰に一生懸命だった理由がわかりました。平和主義者だったからなのだと理解しました。それは、戦時中の安積の校舎が軍事工場と化し、郡山市内に学徒動員で働いていた安積の生徒が爆撃で亡くなった事等、旧制中学最後の63期の中学生の感性で戦争の悲惨さを若い人に伝えたかったのだろうと思いました。今まさにウクライナの問題を古川さんは予測してように思います。長い間外務省にいた国際感覚で、物事を見ていた、私たちの質問にも、その国の歴史的経緯を踏まえながら教えてくださいました。古川さん長い間本当にありがとうございました。やすらかにそして桑野会を見守ってください。